

東奥日報

2022年(令和4年)4月1日(金曜日) (18)

「ばんらぼ」きょうおうオープン

八戸

八戸工業大学(坂本禎智学長)と八戸市の総合建設業・田名部組(田名部智之社長)が産学連携で進めていた同大の「番町サテライトキャンパス」(通称ばんらぼ)が1日、同市番町の同社所有のオフィスビル1階にオープンする。同大は中心市街地での学生の活動拠点や公開講座の会場などとして活用する。(三好陽介)



「ばんらぼ」内のワーキングスペース

八工大サテライトキャンパス 学生の活動拠点に



「ばんらぼ」入り口でテープカットする関係者—3月28日、八戸市番町

プレオープン式典が3月28日、現地で行われ、坂本学長は「大学創立50周年を迎える節目に中心市街地の活性化や地域産業の振興、人材育成の拠点として開設できることはうれしい」と述べ、田名部社長は「向かいに八戸市美術館があり、ロケーションが非常に良い。産学官で連携しながら有効に使っていただきたい」と期待した。熊谷雄一市長が祝辞を述べた。

ばんらぼは面積2339平方メートル。人々が集うラウンジスペース、学生らがさまざまな活動をするワーキングスペース、道路に面したコミュニティスペース、会議を行うミーティングスペースで構成している。両者は昨年12月に産学連携の基本協定を結び、サテライトキャンパスや寄付講座の設置について合意していた。同大は9日からばんらぼで「マチナカ公開講座」を始める。受講は無料、申し込み不要。問い合わせは同大公開講座担当(電話0178-88005)へ。

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」